

2022年度 松蔭中学校・松蔭高等学校 学校関係者評価報告

松蔭中学校・松蔭高等学校 学校関係者評価委員会

2022年度学校関係者評価委員会は、「2021年度学校自己評価」（各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施）、「2021年度学校評価アンケート」（全校保護者対象。以下「学校評価アンケート」）、「2021年度授業評価アンケート」（全校生徒対象。以下「授業評価アンケート」）、「学校見分」（施設見学・行事見学・授業参観）にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。今年度も昨年同様新型コロナウイルスの影響がありましたが、3度の学校見分（9月14日 高1言語探究授業、9月30日 体育祭、11月16日 中1国語探求、中学GL探求授業）を行い、9月14日・11月16日には併せて討議を行いました。

本委員会は次の3点を柱として協議しています。

- （1）キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- （2）学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- （3）豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

（1）キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

- ・（松蔭は）少子化の中で「1人の人がどれだけ大切な存在なのか」ということをいちばんの基本に据えた学校だと思う。そのことを大切にしてほしい。
- ・（子どもを見ていると）キリスト教主義教育の中で、人を大切にする気持ちが芽生えてきた。
- ・（GL探求の授業見分後）ICTデバイスを通して、多くの生徒が主体的に取り組んでいる様子が見て取れた。相手の立場に立って考える様子は、キリスト教主義的だと思った。
- ・宗教週間の特別礼拝では、普段とは異なるお話を牧師先生から聞いて、感銘を受ける子どもたちが多くいた。にじ作業所などの授産施設の方によるパン販売、教会の牧師先生によるクラス講話など、様々な企画を通して「キリスト教主義」に触れてきているようだ。
- ・高校入学生は、入学以来礼拝で聖歌を歌ったことがなく、修学旅行も中止したが、9月からは講堂で聖歌を歌って礼拝を始めた。行事を再開した一年になった。ウイズコロナの時代の中でキリスト教主義の教育の側面の回復、再開を目指す。
- ・キリスト教的な要素のあったバザーは「奉仕活動の日」という行事に形を代えた。今年度は保護者や同窓会にも協力いただき、バザー的な要素を入れたい。
- ・行事がない中で子どもを通わせていたので、どんな学校なのか測りかねる点があった。生徒数の少なさが気になるが、キリスト教主義の教育で女子校ならではの良さもある。その特色を学校説明会で出してほしい。

（2）学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

- ・生徒会に入ってから自分の子どもが変わってきたように思う。
- ・（生徒と）先生の間気軽に相談できる関係があり、安心している。
- ・自由な校風は昔と変わらないが、勉強する学校になってきたように思う。子ども同士のコミュニケーションをはかり、（先生方の見守りの中で）成長してほしい。
- ・松蔭生が好きな体育祭、修学旅行、BlueEarthの活動など、今年は教育活動を止めずに行事が制限なく行えるようになったようだ。

- ・健全な人間関係が、この数年のコロナ禍で構築しにくい状況があったが、「日常」に戻っていく中で良い方向に向かうことを期待する。
- ・教育面でいろんな「新しい」ことを敏感に取り入れていく一方で、「変わらない伝統」をうまく保ちつつ「進化」してほしい。
- ・健全な人間関係の話が出たが、そのような場の設定として食堂営業などの再開を検討する。
- ・松蔭は、教員との関係性だけではなくスクールカウンセラーとの連携がとれている。
- ・女子校ならではのクラブ活動をアピールしてほしい。
- ・個別対応もできている点から、教員との信頼関係ができている。

（3）豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

- ・探究学習は思っていた以上のレベルであった。高校入試のない分、一貫校のメリットを生かした学習が可能で、そのことを大学進学にもつなげられる。（GSの授業見分を通して）
- ・授業評価アンケート中1、高1、高2（学年はいずれも昨年度）の学年の平均点が中央値（2.5）を下回っているが、これはどのように考えるとよいか？ 全体にもう少し上がればいい。
⇒高1では理科の科目数や歴史総合など難しい科目が増える。勉強そのものが難しくなるということが挙げられるが、生徒に力をつけることができるよう尽力したい。
- ・現在の高校の課程について、探究の授業を大学入試とどうやって結び付けていくのかが、今後の生徒たちの課題だ。勉強したいことについて目的意識をもってAO入試などでアピールできるように教員がうまく導く必要がある。
- ・いろんなことを試しておられて、ホッとした。いかに大学受験に繋げていくかが課題だ。子どもたちの納得いく結果が出せるような教育をしてほしい。
- ・授業評価については、平均は2.5点になる。学年ごと、教科ごとの評価を中高別に示したが、結果的に極めてポイントの低い外部講師には講師を代えるなどの対応を取っている。
- ・高1の授業評価が他学年に比べて低いようだが？
→高校新入生になり、iPadを持たせたが、それらの指導もできないうちに休校になったこと等が原因としてあるかもしれない。ICTデバイスに関する設問の回答に表れている。
- ・中学はストリーム制を敷いているが、DSとGSは「つくり方」が違う。受験時からGSは英語入試を通しての選抜。英語に特化したもの。一方で、DSは英語をじっくり、国語力もつけるというもの。時間割もGSは7限まで、DSは6限まで。今後学年が進行する中で、時代の流れも踏まえてどちらが主になっていくのか動向を見ていきたい。
- ・高校募集は7年前から開始し、昨年度（22年度入試）から併願受験も可とした。新たな可能性のある生徒を受け入れたい。
- ・松蔭には「読書教育」を熱心にしてきた歴史があり、県下でも有数の蔵書数の図書館がある。その魅力を知ってもらいたくて、課題図書プレゼン入試という新たな入試を始めた。本好きの生徒にも集ってほしい。
- ・進路指導・高大連携として、校長が旗振りの担い手となって「全学進路指導中央会議」を開くようになった。これは、学校を挙げて進路指導をしようという動きだ。併設大の神戸松蔭女子学院大学との連携はもちろん、他大学の様々な連携、生徒や保護者に対する「立命館大」、「奈良女子大」、「関大」など大学の学びについての出張講義など刺激を与えようとしている。

- ・以上、2022年度学校関係者評価委員会の報告とします。

(参考) 学校法人松蔭女子学院 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会規約 (抜粋)

第2条 (目的)

この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

第3条 (活動)

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

第5条 (組織)

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員 6～8名

保護者代表 (PTA本部役員)、神戸松蔭女子学院大学代表、

卒業生 (千と勢会) 代表、その他学校関係者として校長が委嘱する者

- 2、校長、副校長、事務長 4名